

☆世界政府の樹立を
☆ツケを子どもに回すな
☆生態系の尊重を
毎月5・15・25日発行

市民運動新聞

発行：市民運動新聞編集委員会
電話：042-383-6611 FAX：042-383-3031
〒184-0011東京都小金井市東町4-38-26

社会・経済に多大な影響を与える
少子化に歯止めがかからない

編集委員 佐野 浩

人口減少が止まらないといわれて久しい。1949年の一年間の出生児童数269万人、合計特殊出生率(一生に生む子どもの数)は4.32であった。1993年にはそれぞれ118万人、1.46と減り、70年を経た2019年にはなんと86万人と1.36に減った。

2020年5月29日政府は「少子化社会対策大綱」を閣議決定した。少子化の進行は、人口(特に生産年齢人口)の減少と高齢化を通じて、社会経済に多大な影響を与える。その原因は未婚化・晩婚化・有配偶出生率の低下にある。背景には個人の結婚や出産、子育ての希望の実現を阻む様々な要因がある。「希望出生率1.8」の実現に向け、①長期的展望に立ち、②安定財源を確保し、③総合的な少子化対策を進める、とした。

しかし2020年の出生数は84万人(前年より2.8%減)、2021年のそれは81万人(前年の3.1%減)と予想され、合計特殊出生率も上昇していない。

少子化対策に成功している国としてフランスがある。同国の1993年の合計特殊出生率は1.66。2019年には同1.87と上げている。ハンガリーも2011年合計特殊出生率1.23を2018年には1.55と上げている。

フランスには「家族を補助し、家庭生活と職業生活の両立を促す家族手当があり、これは国内総生産の4%に当たる820億ユーロが充当され、世界でも最も高い国の一つという。又ハンガリーは出産を控えた家族は約360万円を借りられ、3人目が生まれれば全額返済不要という。

これに対し、昨年12月の与党税制大綱には少子化対策が入っていない。2022年度予算に向け、与党がまったなしの少子化対策をどうするのか注目したいところである。

武蔵小金井高架下に温浴施設
「2024年3月竣工か」

武蔵小金井駅高架下に温浴施設の開発計画が進行中であることが分かった。開発を行うのはJR中央線コミュニティデザインで、工事の着工は2023年2月、竣工は翌3月を予定しているという。3日には近隣住民らを招いての説明会が開催された。

東側高架下に駐車場建設も計画

開発区域は、武蔵小金井駅東側高架下の本町1丁目1886番他(右図参照)。面積は5158平方メートルで、内8%(412平方メートル)は小金井市まちづくり条例指定開発事業の定める自主管理公園を作る。小金井街道側にメイン出入口を設け、前方エリアには公園、メイン通路、



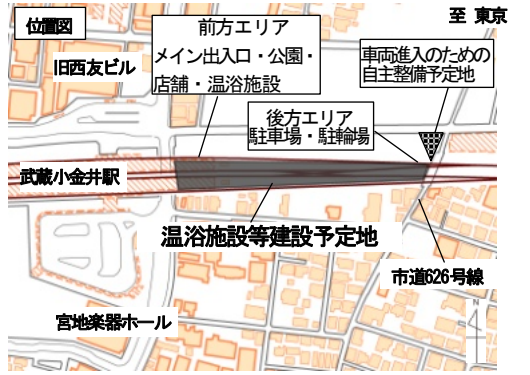
車両進入路として整備予定の市道626号線。現在は歩行者専用道路

店舗、温浴施設が入る。後方エリアと市道626号線を挟んで東側高架下には駐車場、駐輪場(駐輪台数110

台程度を予定)を設ける。

車両進入計画に安全性懸念する声も

3日の説明会でJR中央線コミュニティデザインは温浴施設について「温泉採掘の予定はなし。沸かし湯によるスーパー銭湯のようなイメージで計画している」と説明。施設運営についての詳細は現在検討中だという。また、搬入車両や駐車場への動線が北側の市道から現在歩行者専用道路へ入るルートであるため、出入口側に車両進入路を自主整備する予定であることが明かされた(左写真)。近隣住民からは「現在、保育園の散歩や通勤・通学路として多くの住民が利用して



※JR中央線コミュニティデザインが説明会で配布した「土地利用計画図」を元に作成

いる歩行者専用道路を車両進入路とすることに納得いかない」と、歩行の安全性を懸念する声が相次いだ。これに対しJR中央線コミュニティデザイン開発担当者は「歩行者と車両の通行ルートを分けたり、誘導員やガードの設置検討を含めて安全性の確保に努めたい」と語った。

市長 モデルナ製接種を呼びかけ
子育て関連施設従事者へ優先接種

1月28日、新型コロナオミクロン株の感染拡大が続くなか、西岡真一郎小金井市長は市民に向け感染予防の徹底とワクチン3回目接種の前倒しについてのメッセージを發した。市は独自の対応により接種時期を最大限に前倒しし、2月12日以降、18歳以上の全世代において2回目から6カ月後に3回目接種できる体制を構築。使用ワクチンに関してファイザー社製の供給は47%と前回よりかなり少ないため、積極的なモデルナ社製ワクチンの接種を呼びかけた。また、2日から市内の幼稚園、保育園、小中学校など子育て関連施設従事者への優先接種を開始。市は3日の全員協議会で「1日と2日で60人以上の予約があった」と報告。

1月30日時点で、市内の全人口に対する3回目接種率は5.35%。同日の東京都や全国平均(3.22%)より2ポイント以上高いものの、市は「2日の保健センターの予約枠数450のうち接種したのは203人。現状、『モデルナ控え』があると言わざるを得ない(健康課長)と語る。接種率向上には交互接種への理解が不可欠のようだ。

行財政改革 数値目標を掲げず推進
緊急寄稿② できるのか?

小金井市議 公明 宮下 誠



住民は誰しも、納めている税金の使い方には関心が高いに違いない。『市報こがね』2月1日号に、市政への意向調査として行ったアンケート調査の結果が掲載されているが、他の項目より抜きん出て比率のトップになった項目は、財政健全化、財源確保、コスト削減等を内容とする「財政・財務」で10.5%だった。さらに「計画的行政」や「行政経営」といった同様の項目を加えると、比率は合わせて21.8%となる。

実際、市の財政構造の弾力性を判断する指標である経常収支比率は、西岡市長の就任時と比べて、悪化の傾向が続いており、市民の懸念は当たっているといえる。

市は、令和2年9月の行財政改革推進調

査特別委員会資料にて「アクションプランは策定しない」との方向性を示したが、その時に質疑したとおり、私は納得できなかった上、人件費比率や経常収支比率といった数値目標を掲げて、真正面から取り組んでもらいたいという趣旨の発言をしている。にもかかわらず、先日の委員会では、「行財政改革2025策定について」の説明で、「歳入確保、歳出削減、職員数削減に資する各課の事業を積み上げるアクションプランは作成しない」との方針が示された。

今後は、自治体DXの推進など、市として新たに3つの重点項目を掲げて取り組むとのことで、それ自体は良しとしたい。しかし、数値目標を掲げず、スケジュール管理も確固たる計画として組まずにどうやって進めるのだろうか。緻密なプランを今こそ練り上げ、行革を推進すべきではないのか。

よもやま話☆「小金井新聞」1月21日付コラムの結びは「不可解な新型コロナだ」。昨年の中中の感染状況について、過去号を開いてまで「昨年はそんなに感染者が続出したのだろうか」と首をひねっている。コロナ以上に不可解な一文である。

保育士募集!
月給22万5880円+経験給
(※土曜出勤手当・皆勤手当・会議手当込)
要保育士資格(実務経験不問)7:15~20:15の内、実働8h 週休2日制
★昇給あり!★借上宅制度あり!★賞与年3回!(約4.5か月、2年目以降)★社会保険完備!
詳しくは右記まで 株式会社コスモ TEL042-383-3024
お問い合わせください 人事課 採用担当 小金井市東町4-38-26 トークンプラザB1F

東進塾 小・中・高生
個人指導で弱点補強を!!
三学期生募集中!
小中高生 1科目 4,860円より
(週1回、月計4回) 完全個人指導あり
無料体験授業 随時受付中
小学1・2年生向け
外国人講師のネイティブ英会話開講中
東小金井駅南口すぐ
(コスモ教育センター)
TEL(代)042-383-6464
Eメール easternjk@cosmo-kyoiku-center.jp